

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375200652		
法人名	株式会社 福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑師勝 1階		
所在地	愛知県北名古屋市中熊之庄東出42-1		
自己評価作成日	令和元年10月10日	評価結果市町村受理日	令和 2年 1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2375200652-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援に力を入れ、水分補給が1日1500ccを目指している。それにより認知症の軽減を目標としている。
生活機能向上加算により、理学療法士の先生よりアドバイスを頂き、個々にあった運動実施している。
家庭的な雰囲気大切に、テーブル席のみだけでなく、ソファ席でもゆったりと時間を過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度、法人の支援方針の「再自立支援」に取り組んでいる。水分補給に重点を置いた支援は、水分を取ることに慣れていない利用者、職員も一緒に飲んだり、飲み物を代えたり、形状を変えて水分を取りやすく工夫しており、最初は戸惑っていた利用者も、「飲む」が習慣化してきている。
認知症の軽減を目的に便通改善や日課の散歩等に注力し、理念の「利用者一人ひとりが自分らしく生活できる支援」に取り組んでいる。継続的にを行い、利用者の自立支援に繋がる効果を期待したい。
“働きやすい環境づくり”は離職防止に繋がり、利用者の利益に繋がるとの意識を持ち、職場環境改善意欲も高い。職場内は風通しがよく、管理者は職員の話聞きとり、思いや意見を引き出すよう努めている。チームでフォローし合える環境が構築され、利用者の穏やかな日々を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に提示してあり、朝礼時に唱和し理解を深めている。	基本理念と「お客様とのお約束10ヶ条」を事務所内に掲げ、唱和して仕事に取り掛かっている。理念は浸透しており、利用者の「自立支援」、「自己決定」を大切にしている。個人目標を掲げ、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、町内掃除や子供会、夏祭りに参加し地域との交流を図っている。地元の中学校の職場体験や小学校の街探検の場所として受け入れている。	盆踊りには、ホームの席が設けられお土産を頂いたり、地域の祭りには子供獅子がホームを訪れている。スクールガードとして登下校の子供たちを見守り、施設周辺の散歩の時の挨拶や清掃などの交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方に参加して頂きその際、認知症の相談や在宅での高齢者様の話をお聞きし、サービスの紹介等の話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、事業所の報告と共に意見交換の場としている。	運営推進会議には、利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、行政、知見者が参加して年6回開催している。出席者との双方向の意見交換があり、出された意見はホーム運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な際、相談に乗って頂く事はある。日頃の実情については運営推進会議などで伝えている。 市、行政主催のケア会議等の研修には担当が参加している。	運営推進会議には市・高齢課職員、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの状況の把握、理解に努めている。管理者は市・高齢福祉課に出向き、担当者との関係作りを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に一度身体拘束委員にて話し合いをし拘束を行っていないか確認している。又、言葉の拘束を中心に毎回話し合いをしている。玄関の施錠については、人員の余裕があり危険がない時には、自動から手動に切り替えている。	管理者・職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は安全の面から施錠をしているが、善しとはせず、事務所に職員が在中するときは、手動にするようにしている。スピーチロックに陥ることもあるが、管理者はそれを見逃さずに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度、ミーティングにて勉強会を行なっている。苑内だけでなく、近所で発見した際も通報義務がある事を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度リーダーが研修を聞き、ミーティングにて伝達研修を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書等全て読み上げ、不明な点等聞き取っている。改定の際、金額の変更等がある際は必ず同意書を貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来苑された時や、家族会や担当者会議などで意見を聞いたりしている。	家族の意見を聞く機会が多い。運営推進会議や家族来訪時、サービス担当者会議、家族会などで意見や要望を聞いている。家族ボランティアなどを活用し、家族協力を得たホーム運営に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々スタッフと話す機会を設け、必要であれば反映させている。 年に2回面談がある。	年4回の管理者との面談がある。職員から「風通しが良い」など、良好な関係が語られた。法人代表に直接届く「提案箱」が置かれ、職員意見から制服補助費の支給が実現し、研修費や資格取得費の補助もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回考課制度があり、個々に話を聞く機会がある。目標を持って働けるよう目標を立て評価を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のレベルに合わせた、法人研修があり参加している。希望があれば法人外の研修にも参加して頂きレベルアップを行なっている。参加後はミーティングにて勉強会を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度市内のグループホーム交流会があり参加し、情報交換している。他の事業所の運営推進会議にも参加した事もある。市内の研修にも参加しネットワークを作り情報交換も行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に本人に聞き取りを行なっている。利用者同士の関係作りの前に、スタッフとの関係作りが出来るように、食卓のテーブルにスタッフが同席し、利用者様同士の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時には家族様も同席し、今困っている事を聞き出し、入居後のビジョンをお話させて頂き、不安のないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービス等を利用している場合には、ケアマネや事業所からも聞き取りを行ない、情報収集し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、出来ること、やりたい事を観察しながら、常に声かけし一緒に出来る事は行ない、見守りしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も出来るだけ来苑する機会を持って頂きその際には苑での様子などお話を頂いている。毎月お便りにて、近状は報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は、家族様の了承を得て来苑を可能としている。また、馴染みの場所には家族様にお連れしてもらっている。	近所だった友人、教会の友人、入居前の民生委員が定期的に訪ねて来ている。毎年家族と温泉旅行に出掛ける利用者もあり、関係継続に努めている。編み物やお茶・活け花などの趣味の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係性を見ながら、席の配置をみたり必要であれば交換をしながら、皆が関わられるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、気軽に来苑できるように配慮している。 又、亡くなった際には定期的にはがきを出しグリーフケアも行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	タイムスケジュールは基本的にあるがこれにこだわる事なく、状況に応じて柔軟に対応している。	利用者の思いを把握するため、1対1で安心して心を開いて接する入浴の機会に、寄り添って話を聞いている。言葉で意思表示ができない利用者には、表情や身体の動きなどから、思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしは、家族様やケアマネに聞き取りをし、スタッフに伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな1日のスケジュールはあるが、参加は本人の状態をみて決めてもらっている。 心身の状態の変化があれば、職員間で情報共有を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行ない話し合いをしている。その際に必要なケアを見つけている。年に1度家族と担当者会議を行ない報告をしている。3か月に一度介護計画書のサービス内容を見直し家族にサインを頂いている。	毎月利用者の担当職員がモニタリングを行い、ミーティングで話し合っている。年1回家族も参加して、サービス担当者会議を開催し、意向を確認している。本人・家族の意向を反映した介護計画作成に努めている。	その人らしさの出た具体的な介護計画である。短期目標やサービス内容は達成度合いが明確になるように、具体的に記載することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化についてケアの変更についてはリーダーを中心に行なっている。その都度連絡帳に記載し、ミーティング出話し合いを必要に応じて介護計画書に盛り込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢家族には「きずなの会」に入会して頂き必要があれば対応してもらっている。 希望する家族様には、訪問マッサージを受けている。 訪問美容室を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとのイベントに地域のボランティアに来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に馴染みのかかりつけ医との関係も大切にしながら、苑でのかかりつけ医もある事を伝え選択して頂いている。かかりつけ医には月2回往診して頂き、必要があれば立ち合っている。訪問看護と協力し関係を築いている。	従来のかかりつけ医、ホーム協力医の2者からかかりつけ医を選択出来る。全員が協力医を選び、月2回の往診を受け、訪問看護師による体調管理もある。他科受診は基本家族対応であるが、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護が来苑し、利用者様の状態をみて頂いている。往診には立ち合ってもらい指示を受けている。24時間連絡可能な対応を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院1週間後に状態を家族様から聞き取り、状態を聞いている。また1ヶ月を節目に連絡を取り退院の目途を聞き取っている。訪看からも病院の連携室と連携をとり、医療的な状態を聞き取り、かかりつけ医に報告してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りの話しを行ない、家族様に意向を聞きとっている。また、そうなった時の話し合いはかかりつけ医も交えて早い段階で行ない、家族様、職員が混乱のないよう方針を決めてチームで支えている。	医療的ケアがない場合、利用者・家族の意向に沿って看取りを行い、今年度2名の看取り事例がある。訪問看護師による職員への「看取り研修」や家族への説明、看取り後の職員・家族のフォロー体制もある。終末期には、家族が居室に泊まることもできる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルはある為把握できている。また、ミーティング等にも訪問看護から急変時対応などの勉強会を行ない、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回火災・水害・地震の訓練を行なっている。消防署の立会いも年に1回あり、指導(AED・通報訓練等)頂いている。避難訓練は、運営推進会議の時に行ない、地域の方にも見て頂く様にしている。	年4回火災(夜間・日中想定)・水害・地震想定の訓練を行い(1回は消防署立ち合い)、通報・初期消火・避難訓練を実施している。昨年、停電を経験したことから、水道の栓を自動から手動に変更した。	運営推進会議に議題として取り上げ、地域の協力体制の構築に向けた話し合いを期待したい。災害時の地域協力の役割など、要請していくことが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレなどへの声掛けは小声で行ない尊重している。丁寧な対応、言葉がけをするよう心掛けている。	利用者の呼称は基本「さん」付けとし、利用者を尊重した言葉使いに努めている。やむ得ずリビングで申し送りをするときは、聞こえないように注意している。入浴時はタオルを掛けるなど、羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できない方には、きちんと話をし決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先し、過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は必ず櫛で髪の毛を整えて、身だしなみに気をつけている。家より気に入った洋服など持ってきて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも同じ食事をし、1人1人の好みや食べ方を観察している。下膳できる方には無理の無いようにお願いしている。茶碗拭きも一緒に行ない、お手伝いして頂いている。	法人作成の献立があり、昼食は調理専門員が調理し、朝・夕食は職員が調理している。メニューを書く、玉ねぎの皮を剥く、食器を洗う・拭くなど利用者の役割がある。職員も一緒に喫食し、家庭的な雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人食べる量や大きさを考え提供している。水分量は多めに摂れるように、服薬の水も多めに出してにんで頂いている。水分が多く飲めない方には、口当たりの良いゼリーなどを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行ない、実施して頂いている。仕上げが必要な方には、歯の状態に合わせ、うがい薬やスポンジにて対応している。年に1度歯科検診を行なって頂き口腔内の状態をみて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	活動の節目にはトイレの声かけや誘導を行っている。排泄のパターンやしぐさを知る事によりトイレ内での排泄を促している。立ってされる男性の方には、便座を上げて頂く様に声掛けを行なっている。	トイレでの排泄を基本とし、トイレの場所が目立つように表示している。利用者一人ひとりに合わせて誘導し、成功例を職員同士が共有して、紙パンツから布パンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	月・水・金の朝のおやつにはヨーグルトを提供し、オリゴ糖をかけて自然排便を促すようにしている。便秘気味の方には起床時、冷牛乳を提供したりホットタオルでお腹を温めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添い入浴を行なうのは、難しいが個々の心身の状態や気分に応じ、柔軟に入浴日を変更できる。	週3回の入浴機会がある。湯は1人ひとり入れ替え、柚子湯や菖蒲湯など、季節が感じられるように支援している。シャワー浴やミスト浴、移動入浴に対応できる広さが確保されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に共用部、居室に行き来でき、好きな時に休むことが出来る。必要な方にはお昼寝を設けている。また、就寝時間も1人1人にあった時間で休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつも見られるファイルに1人1人の処方箋が入っており、スタッフがすぐに見られるようになっている。必要であれば薬局にも連携している為相談にも乗ってもらえる。服薬時には本人の薬がどうか声に出し確認し服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や日課が出来るよう日々考えている。日めくりカレンダー当番や茶碗拭き、洗濯物たたみ、メニュー書きをやって頂きながらメリハリをつけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日は難しい為、季節ごとにドライブへ出掛けたり、誕生日には希望をきき、外出や外食を支援している。	天候や利用者の体調、タイミングを計り、1対1でホーム周辺の散歩に出かけたり、敷地内のベンチでの外気浴をしている。季節ごとにドライブで花見に出かけたり、誕生日には希望を聞き取り、個別外出に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的には事務所で管理している。外出した際には、お金のやり取りがご自分で出来る方にはお願いしているが、基本的にはスタッフが行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が望めば、家族様に電話を取り次いでいる。 年賀状を家族様にお出ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる壁画を貼ったり、お花を飾ったりしている。外の庭にはプランターで家庭菜園をし目で楽しめるよう工夫した。テレビだけではなく音楽も取り入れながら心地良い空間作りをしている。	2階は天窓から外光が入り、白を基調とした明るく清潔なリビングである。利用者・職員共同で季節感のある飾り付けをし、音楽を流しながら居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。昼食後ソファでうたた寝をし、安心して過ごした穏やかな利用者達がいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファがあり、食事の席とは違う場所でくつろげテレビが見られる。居室にて自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物を持って来て頂いたり居室に家族の写真を飾ったりしている。又自宅でやっていた趣味の物を持って来て頂き苑でも出来るようにしている。	利用者の手形を絵にした色紙が、居室入り口で出迎えている。自宅からの持ち込みは少なく、整理整頓された居室が多いが、馴染みの机や椅子、家族写真などが持ち込まれ、思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月モニタリングをし、その方の出来る事を把握している。全てスタッフが行なうのではなく見守りしながら、出来る事や分かる事を理解し生活に取り入れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375200652		
法人名	株式会社 福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑師勝 2階		
所在地	愛知県北名古屋市熊之庄東出42-1		
自己評価作成日	令和元年10月10日	評価結果市町村受理日	令和 2年 1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2375200652-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター	
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F	
訪問調査日	令和元年10月30日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を学び、水分量・運動量を増加し、ケアに繋げている。

理学療法士の指導のもと、個々に合った機能訓練を行なっている。

看取りを家族・医療機関と連携しながら行なっている。また、看取りを経験しているスタッフが多い。

季節を感じられる行事を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に全員で唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には難しいが、地域の行事(夏祭り・掃除)には参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としては難しいが、スタッフ一人一人が認知症の相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を尊重し、サービス向上を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて報告し、必要に応じて密に連絡している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて3か月に1回話し合い、ミーティングにて報告している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したスタッフがミーティングで報告している。入浴・更衣時に身体チェックをしている。アザ等、気になる事があれば、報告し画像に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて勉強している。成年後見制度を利用されてる方がみえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、時間をかけて説明している。改定等は、書面と口頭で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等で話をし、その中で意見を聞き反映している。運営推進会議に家族代表者に参加して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱が設置している。管理者とは、常に話ができる環境にあり、代表者とは、研修等で話ができる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課制度を取り入れ、面談し個々に目標を立て、それに向かって働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれ、役割を持ち、社内・社外の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回、北名古屋市のグループホームと交流会があり、情報交換している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	良く観察し、コミュニケーションを取り、安心して頂けるよう支援し、情報を共有している。会話をする中で、本人の気持ちを汲み取っていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、困っている事を聞き、生活環境を伝え、相談しながら支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から、情報収集し、本人・家族と面談し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動等、一緒に行なっている。食事・おやつを一緒に同じ場所で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑された際には苑での様子などお話を頂いている。毎月お便りにて、近状は報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は、家族様の許可を得て、面会に応じている。また、馴染みの場所には家族様にお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの際、スタッフが間に入り良い関係が築けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	来苑された際には、快く受け入れている。連絡があった際には、来苑しやすいよう対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に添える事は、行なっている。自分らしく暮らせるよう様に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活は、家族やケアマネに聞き取りをし、スタッフに伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人出来る事、出来ない事を把握し、その人にあった生活をして頂いている。朝のバイタルチェックの際、その日の心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにてモニタリングを行ない話し合っている。状況に応じて家族・医療機関と相談し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしをタブレットに入力し、日誌を使用して記録をとり、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ・訪問歯科を利用されている方がみえる。訪問美容を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際、地域のボランティアに来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医、または苑のかかりつけ医を選択して頂いている。往診に来て頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制なので、必要に応じて連絡している。タブレット画像・ノートを使用して報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを渡し、情報共有している。家族と連絡を取り、状況を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関・家族とその都度、話し合い方針を決めて、共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにて行なっている。年に1回 AED訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ない、年に1回 消防署の方に来て頂き、指導を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ・入浴・更衣時は、声掛けし、羞恥心に配慮している。ミーティング時などに注意点など確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動する前に、声掛けし、決定して頂いている。決定表現が出来ない方には、1つ1つ声掛けし、ケアを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に部屋があるので、利用者さんのその時の希望を聞き入れて、自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んだり、化粧品を使用されている方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にテーブルを拭いて頂いたり、食器拭きなど、出来る事をお手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量をタブレットに入力して把握し、水分が不足している際には、好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に口腔ケアを実施している義歯を、週3回洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タブレットにて、排泄パターンを把握し、状況に応じて声掛け誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声掛け、未排便が続いた時には、ホットタオルで腹部を保温している。週3回、おやつ時にオリゴ糖入りのヨーグルトを提供し、自然排便に繋がるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか、個々の希望のは添えないが、気持ち良く入浴して頂けるよう努めている。入浴を拒否される方には、時間を変えて再び声掛けしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて、いつでも休める状態にある。その時々状況に応じて、昼寝などの声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ロボを導入している。個々のファイルに薬の処方箋があり、すぐに確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き、洗濯物たたみ、メニュー書きをやって頂きながらメリハリをつけている。歌を唄ったり、計算ドリルを解いたり、散歩に出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	主に、外出は家族にお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ってみえる方はみえるが、購入は家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許可があれば、電話する事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーを作り・季節が感じられる様、飾り付けをしている。利用者さんと一緒に壁画を作成している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は各自決まっているが、所々にソファを置き、自由に座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持って来て頂いたり、家族の写真を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室を大きく表示している。廊下に物を置かないようにしている。		